

会議録

会議の名称	平成26年度 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成27年1月26日（月曜日） 午後7時から8時30分まで
開催場所	保谷庁舎 1階会議室
出席者	委員：赤澤委員長、有賀副委員長、岸上委員、郷地委員、中平委員、西田委員、山本委員（欠席：近辻委員、藤江委員、安井委員） 事務局：安藤課長、林文化振興係長、工藤文化振興係主査
議題	1 「平成26年度施策・事業評価（平成25年度分）」評価結果の報告について 2 計画中期の取組実施報告（「対話による美術鑑賞」事業他）について 3 その他
会議資料の名称	1 「平成26年度施策・事業評価（平成25年度分）」評価結果報告書 2 計画中期の取組実施報告について 「参考資料」 ・「多摩六都フェア 映画制作ワークショップ上映発表会」チラシ ・西東京市フェイスブック月間報告（平成26年12月） ・「多摩北部5市美術家展」図録 ・西東京市立栄小学校 学校通信「けやき」
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○委員長： 定足数と出席している委員を確認</p> <p>（配付資料について）</p> <p>○事務局： 参考資料として文化振興課主催事業の「多摩六都フェア 映画制作ワークショップ上映発表会」チラシと入場整理券を配付させていただいた。2月22日の上映発表会には是非足を運んでいただきたい。</p> <p>「多摩北部5市美術家展」図録については、美術家展来場者に配布しとても好評を博した。図録内の作品の撮影には10時間を要した。</p> <p>西東京市立栄小学校の学校通信「けやき」については、「対話による美術鑑賞」事業について取り上げていただいているので配付させていただいた。</p> <p>議題1 「平成26年度施策・事業評価（平成25年度分）」評価結果の報告について 安藤課長より、「施策・事業評価」に当たって推進委員会評価コメントを作成していただいたことに対するお礼。</p>	

事務局から資料1に基づき説明。

○事務局：

12月26日に関係各課へ評価結果を報告するとともに、市長へ報告。各所管課においては評価コメントを問題提起として捉え、次年度以降の事業を推進する上での参考としていただくこととする。

委員の皆様にはPDCAのCheck（点検・評価）をしていただいたが、次のステップのAction（見直し）については、どの取組がどのように見直したのかを見える形にしていきたい。

評価結果報告書については情報公開コーナー及び市ホームページで公開し、広く市民に周知する。

○委員：

評価結果報告書は、そのままの形で市ホームページに載せるのか？

○事務局：

そのままの形だと市民には分かりにくいこともあるので、どのような形がいいかを検討し、2月中に市ホームページに載せたいと考えている。

○委員：

評価結果内容について市民から意見をもらうようにするのか？

○事務局：

市ホームページに掲載すると市民から意見をもらうことはあると思うが、パブリックコメントを実施する予定はない。

議題2 計画中期の取組実施報告（「対話による美術鑑賞」事業他）について

事務局から資料2に基づき説明

「実施プログラム①講演会・勉強会の充実」

（「対話による美術鑑賞」体験会 in 多摩北部5市美術家展）

○事務局：

「対話による美術鑑賞」体験会を実施。参加者は1回目25人、2回目26人で、合計51人の参加があった。参加者には行政関係者や出品者の画家の先生たちもいた。

ボランティアの皆さんのほとんどが大人相手が初めてで、しかもプロの画家の参加もあったため、最初はとても緊張していてやりづらそうではあったが、途中からは自然体で対応できていたと思う。

○委員：

他人の意見を聞くことはいいこと。特にプロの画家の意見に刺激を受けた。（鑑賞ファシリテーターの）ボランティアがもっと積極的に客（参加者）にアプローチしてもいいと思った。

アートみえる（ボランティア）の対応にとっても感心した。子ども相手の「対話による美術鑑賞」を見てみたい。

栄小学校の学校通信の中にもあるように、観察力が強くなることにより、算数など他の教科においても効果があるということは素晴らしいと思う。

作品と客をつなぐボランティアは誰にでもできることではないと思う。今後ボランティアの力量が問われることになると思う。

委員：

来年度の小平市での美術家展では「対話による美術鑑賞」体験会は行うのか？

○事務局：

小平市の担当職員も体験会に参加し興味を持っていたが、行うかどうかは未定である。

「実施プログラム2「対話による美術鑑賞」事業の推進」

○事務局：

市民ボランティアレベルアップ研修は今年度10回目を実施。

小学校における「対話による美術鑑賞」事業は、今年度5校目の栄小学校、6校目の谷戸第二小学校で実施し、栄小学校は美術館訪問授業も実施。

○委員：

アートミーアの自立は考えているのか？

先進例の大和市のボランティアは自立しているのか？

○事務局：

全校実施までは自立は難しいと考えている。しかしながら、市民ボランティア主導の運営を目指しているところなので、学校やボランティアとの調整を図る地域コーディネーターの早期育成を図ることにより、委託業者に頼らないで事業を継続できる仕組みづくりを教育委員会やARDAと検討しているところである。

大和市は西東京市より1年半早くスタートしているが、まだボランティアの自立には至っていない。

現在ボランティアは全くの無償で活動を行っていただいているが、委託業者から自立していくためには多少の謝礼も必要ではとの声もある。

○委員：

ボランティアの無償が気になっていた。有償の方が責任感も芽生えると思う。

○事務局：

確かにボランティアが長期的にモチベーションを維持し自立していくためには、多少の謝礼も検討すべきであるとは思っている。

○委員：

ボランティアが作品に対する意見を述べたり、作者の意図や作品の趣旨を述べたりすることも大切であり、そのためには作品に対する知識も必要だと思う。

○委員：

作品の知識も必要だと思うが、それよりもコミュニケーション能力の向上に重きをおいているので、あえて作品の説明はせずに子どもの自由な発想を引き出すために、ボランティアは自分の意見は述べないのでは。ボランティアの主観が入ると、子どもが自分の考えと違う場合に発言がしにくくなると思う。

○事務局：

委員のおっしゃるとおりである。この「対話による美術鑑賞」には正解・不正解はなく自由に意見をいただくことに主眼を置いているので、作品の解説はしないこととしている。

○委員：

ボランティアが作品の知識を教えないということだが、ボランティア募集の段階でそのような情報をお知らせしているのか？

○事務局：

ボランティアの募集要項では、アートの専門知識は問わないことを明記しており、絵や子どもが好きで、コミュニケーション能力が高い人を採用している。

「実施プログラム3 多摩六都フェア事業の推進」

○事務局：

映画制作ワークショップについては、先日撮影が終わり受講生たちが編集の作業を行っているところである。

多摩北部5市美術家展については、11月28日から12月5日までの7日間開催し、805人の来場者があった。

○委員：

撮影会に参加したがとても本格的であり、いい作品ができると思う。

「実施プログラム4 文化ボランティアの育成」

○事務局：

会場係ボランティアについては、10人程度募集したところ7人の応募があり、応募者の年齢は20代から70代までですべて女性である。1月24日に保谷こもればいホールでの最初の活動があり、新メンバー4人が参加した。4人のうち2人は保谷こもればいホールに初めて来たとのこと。

・会場係ボランティアについてはまだ登録制度が確立していないが、制度化に向けて保谷こもればいホールと連携していきたいと考えている。

「実施プログラム5 文化芸術情報収集・発信の仕組みづくり」

○事務局：

「対話による美術鑑賞」事業については、市が市報、市ホームページ、プレスリリースなどで情報を発信するとともに、栄小学校でも学校通信やホームページで情報を発信。

多摩北部5市美術家展について西東京市フェイスブックに掲載したところ、522件のアクセスがあった。

多摩北部5市美術家展について民間事業者が、西東京TV（インターネットテレビ）や田無駅改札前デジタルサイネージ（電子広告モニター）で情報を発信。

「映画制作ワークショップ」上映発表会について、J:COM西東京に職員が出演しPR。

「その他1（文化芸術振興イベントの充実）」

（市民文化祭）

○事務局：

市民文化祭については、10月18日から11月15日まで開催し14,705人（実行委員会発表）の来場者あり。PRinアスタは10月1日から10月4日まで、オープニングイベントは10月18日に開催。

○委員：

文化祭の参加者の意識は発信がメインで、受信者である観客との交流まで高められるかが課題である。

舞台上での団体相互のコラボがまだまだ足りないと思う。

オープニングイベントは文化祭のエッセンスを2時間に凝縮したステージであり、今回は西東京市の文化財など歴史を動画で紹介する試みをした。とても好評を博したのでこれを数回続けたいと思う。

課題としては、自分たちの発表にとどまらないようテーマに沿ったパフォーマンスができるよう工夫していきたい。

今後は介護施設の利用者の招待などもしていきたいと考えている。

（市民まつり）

市民まつりについては、11月8日、9日の2日間開催し、169,000人（実行委員会発表）の来場者があった。

絵画募集事業については、285作品の応募があり、ポスター・チラシ表紙用1作品、チラシ裏表紙5作品を選定し、全応募作品を谷戸公民館1階ロビーに10月30日から11月9日まで展示。

都立保谷高校の生徒190人がボランティアとして参加。

（どんど焼）

1月10日、11日、18日に市内3か所で実施。市ホームページに「みんな集まれどんど焼！」を掲載したところ、476件のアクセスあり。12月のイベント情報アクセスランキング第3位。

議題3 その他

○事務局：

次回第5回推進委員会については、3月中旬以降に開催したい。内容としては計画中期の取組実施報告をして、その後に計画の推進する取組の一つである「地域の伝統文化とは何か」を検討していくために、伝統文化の継承をテーマとしたドキュメンタリー映画「やるべえや」の上映会を企画したいと考えている。福島県檜枝岐村の農村歌舞伎の伝承がテーマとなっている。上映会については、福島県下郷町を拠点として活動されている安孫子監督もお呼びしたいと考えているので、監督と調整の上日程を決定したい。た

だし、まだ決定していないので調整がつかなければ、推進委員会のみ開催となる。

上映会については一般の市民の参加も考えており、内容については委員長、副委員長と調整の上決定したい。いずれにしても日程が決定次第、委員の皆様ご連絡したい。